

千葉県市原市の地層「千葉セクション」が、国際基準の地層境界である「国際境界模式層断面とポイント (GSSP)」に認定され、約 77 万 4 千年前～約 12 万 9 千年前の地質時代の名称が「チバニアン」と名づけられることになりました。世界で認定された 74 カ所に、初めて日本の地層が選ばれたこととなります。今回の決定に至る過程には科学者の努力だけでなく、地層が存在する市原市の協力も大きく貢献しています。



チバニアンの GSSP (国際標準模式層断面および地点) となった千葉県市原市養老川沿いの露頭。奥の階段の突き当たり付近で松山/ブリューヌ境界が見られる (撮影: 菅沼悠介)

本シンポジウムでは、高い関心を集めているチバニアンの決定における過程を振り返り、背景となる GSSP とは何かを含めて、その科学的な意義を紹介します。また、チバニアンの決定が及ぼす社会的な重要性に関しても議論します。

日時: 令和 4 年 5 月 24 日 (火) 13:00 ~ 17:10

場所: 日本学術会議講堂、他 1 室 東京都港区六本木 7-22-34

入場無料

本シンポジウムは、現地開催とオンラインによるハイブリッド形式で行います。申し込みは下記 URL、もしくは QR コードからおねがい申し上げます。
https://nws.stage.ac/scj_sympo220524/



主催: 日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会、地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 INQUA 小委員会、東北大学学術資源研究公開センター総合学術博物館
 共催: 日本地球惑星科学連合、日本地質学会、日本古生物学会、日本第四紀学会、福井県立大学恐竜学研究所
 後援: 東京地学協会、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所、国際地質科学連合 (IUGS)、茨城大学

プログラム

挨拶

- 13:00-13:10 文部科学省挨拶
- 13:10-13:15 梶田 隆章 (日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)
- 司会: 益田 晴恵 (日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院理学研究科教授)
- 13:15-13:45 「Chibanian GSSP 承認に至る IUGS の役割と我が国の地質学研究における意義: シンポジウム趣旨説明に代えて」
 北里 洋 (日本学術会議特任連携会員、IUGS 執行理事、早稲田大学教育・総合科学学術院招聘研究員)
- 13:45-14:05 「学術会議の国際活動の重要性」
 高村 ゆかり (日本学術会議国際担当副会長・第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)
- 14:05-14:35 「GSSPs - International Geostandards and Milestones in the History of Planet Earth」
 Stanley C. Finney (IUGS Secretary General, Professor, California State University at Long Beach)
- 14:35-15:00 「Recent development of Quaternary Stratigraphy」
 Martin J. Head (Vice-Chair of ICS Subcommittee of Quaternary Stratigraphy, Professor, University of Toronto)
- 15:00-15:30 「チバニアン GSSP の特徴と、その学術上の意義」
 岡田 誠 (茨城大学理学部教授)
- 15:30-15:45 休憩
- 15:45-16:15 「基礎自治体の立場からの学術研究支援について」
 小出 譲治 (千葉県市原市長)
- 16:15-17:05 **総合討論**
 司会: 木村 学 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門アドバイザー)
 - (1) 地学教科書に於ける取り扱いについて
 川辺 文久 (文部科学省初等中等教育局教科書調査官)
 - (2) SDGs 実現のための地学教育の役割
 久田健一郎 (日本地学教育学会会長)
- 17:05-17:10 閉会にあたって
 堀 利栄 (日本学術会議第三部会員、愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授)

講演会会場アクセス
 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 出口すぐ

